

一改過とはあやまちを改るなり、我あしき事を改め直すをいふなり、人々我あしき事を悪しきとは知ながら改る事なき、淺ましき事なり、或は悪き事を俄に改るをはづかしき様におもひて改めざる事もあり、大なる心得違ひなり、改めざるこそ恥かしき事なれ、改るは人のほむ事なり、悪き事は早く改むべきなり、

〔古事記上〕伊邪那岐命語詔之、愛我那邇妹命、吾與汝所作之國、未作竟故可還、爾伊邪那美命答曰、悔哉、不速來、吾者爲黃泉戶喫、略下

〔日本書紀十四〕三年四月、阿閉臣國見更名磯特牛、譖栲幡皇女與湯入廬城部連武彥、略中武彥之父枳莒

諭聞、此流言、恐禍及身、誘卒武彥於廬城河、僞使鷓鴣沒水捕魚、囚其不意、而打殺之、略中枳莒諭由斯

得雪子罪、還悔殺子報殺國見、逃匿石上神宮、

〔日本書紀二十五〕五年三月戊辰、蘇我臣日向日向字身刺、譖倉山田大臣於皇太子、略中皇太子信之、

己巳、大臣略中自經而死、是月、遣使者收山田大臣資財、資財之中於好書、上題皇太子書於重寶上、

題皇太子物、使者還申所收之狀、皇太子始知、大臣心猶貞淨、追生悔恥、哀歎難休、即拜日向臣於筑紫、

大宰帥、世人相謂之曰、是隱流乎、

〔本朝法華驗記上〕第十九法性寺尊勝院供僧道乘法師

沙門道乘、略中天性急惡、不忍過咎、龜言罵詈弟子童子、息恚心後、叩頭悔歎、流淚發露、或對佛像、實心

改悔、或對大衆、誠心陳懺、略下

〔源平盛衰記十七〕大場早馬事

治承四年九月二日、相模國住人大場三郎景親、東國ヨリ早馬ヲタツ、福原新都ニ著テ、上下ヒシメ

キケリ、何事ゾト聞バ、伊豆國ノ流人、前右兵衛權佐源賴朝、一院白河後ノ院宣、高倉宮ノ令旨有リト

稱シテ、同國ノ目代平家ノ侍和泉判官平兼隆ガ、八牧ノ館ニ押寄テ、兼隆并家人等夜討ニシテ、館